

対象年度		令和 7年度						総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名		畜産業振興事業						予算事業名		畜産業振興事業費			
予算科目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				06	01	05	11	経常経費					
総合計画体系		歴史と自然を育み にぎわいと活力ある産業を目指そう 特色ある農業の振興と活性化 活力ある産地の育成						事業の区分		主要事業			
								担当課係等		農政課 農業係			
事業期間		継続 (年度～ 年度)											
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
ワクチンの予防接種や疾病検査により安全な農産物を生産し、殺虫剤等を散布することにより環境対策を行い、畜産経営の安定化を図る。							家畜伝染病の流行により、畜産農家の家畜伝染病への対策に係る経費や衛生環境対策に係る経費が年々増加してきているため。						
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】						
養豚農家及び牛飼養農家が行う家畜のワクチン接種に対して助成を行う。 畜舎及び堆肥舎等に使用する殺虫剤等の防疫資材の購入に対して助成を行う。 県主導で行うCSFワクチン接種の手数料徴収事務を行う。							結城市家畜畜産物衛生指導協会 市内畜産農家						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							畜産農家は飼料高騰、家畜伝染病の発生増加によるワクチン接種及び消毒剤等の衛生費増加等により、非常に厳しい経営状況にある。そのため畜産農家からの支援の要望は多いため、ニーズにこたえる必要がある。平成30年度から全国的にCSF (豚コレラ) が、また、令和2年度からはHPAI (高病原性鳥インフルエンザ) が流行している。これらの疾病の発生時には飼養畜が全頭殺処分となり、その対策は市内畜産農家の経営を守るために必須である。						
【令和 7年度 事業内容】			【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】						
家畜伝染病に対するワクチンの予防接種及び4年に1度行われる牛疾病検査に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うCSFワクチン接種の手数料徴収事務を行う。			家畜伝染病に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うCSFワクチン接種の手数料徴収事務を行う。				家畜伝染病に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うCSFワクチン接種の手数料徴収事務を行う。						
■事業費													
		R05年度		R06年度									
財源内訳	国庫支出金	0		0									
	県支出金	0		0									
	地方債	0		0									
	その他	1,601		1,601									
	一般財源	1,042		2,296									
歳入計 (千円)		2,643		3,897									
歳出内訳	節 (番号 + 名称)		金額 (千円)		金額 (千円)								
	11 役員費		0		1								
	18 負担金補助及び交付金		2,643		3,896								
歳出計 (千円) (A)		2,643		3,897									
伸び率 (%)				47.44									
備考													
総合計画84ページ 予算書131ページ													

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R05年度	R06年度	R07年度
活動指標	事業周知戸数	戸	目標	15.00	15.00	15.00
			実績	15.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	CSF（豚熱）ワクチン接種戸数	戸	目標	14.00	13.00	13.00
			実績	14.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	予防接種に対する補助や予防接種と疾病検査の手数料徴収業務を行うことで、生産者の安定経営に寄与することができ、また担い手が減少している生産者への支援は不可欠である状況の中、畜産振興を図るために重要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	衛生管理指導、法的な問題への対応などは行政が行うべき事業であるため、妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	補助事業は市が関与する方法が一般的であり、問題はない。 家畜防疫負担金についても、県の条例に基づき市が行うと定められており、妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	補助事業による支援が必要な中、豚オーエスキー病ワクチン接種に対する補助は清浄化により利用の必要がない事業になったため、コストの割振りを随時見直す必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	事業は全畜産農家を網羅できるように実施されており、問題はない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	最終目標はワクチンを打たなくてもよい状況を作る事であるが、「効率性」の項目にもあるようにワクチン接種への補助を行った豚オーエスキー病は清浄化が達成され、接種の中止が可能になったため、成果は上がったと言える。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	順調に進んでいる。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

畜産関連の事業にあつては、様々な家畜伝染病の発生に柔軟に対応する必要がある中で、ワクチン接種や衛生対策を行うとともに、事業者の高齢化問題や担い手不足などの問題に取り組むために、次の事業へと展開していくことも必要であると考えられる。目下の問題ではなく、将来を見据えた経営体制づくりが重要である。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

畜産農家に各事業の内容を説明すると共に、目的を周知し地域の意識が統一され、一体となった防疫体制を作る。
家畜防疫事業に関しては、オーエスキー病の清浄化によりワクチン接種が中止可能になったため、次なる事業を考案し、その予算に充てる事ができるようワクチン接種を推奨してゆく。
畜産環境対策事業に関しては、畜産農家の要望を伺い、昨今のニーズに合わせた補助事業へ改善していく。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

- 拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
 改善改革しながら継続
 現状のまま継続（改善・改革なし）
 統合・新規事業への展開
 縮小
 休止
 廃止・終了
 予定どおりの要求
 一部改善の上要求
 今回は見送り
 その他の処置

方向性の具体的内容

畜産業の経営安定と振興を図り、家畜伝染病の発生及び蔓延を防止するため、防疫指導を行いつつ家畜伝染病の発生状況や畜産環境対策を常に検証しながら、事業を改善し行っていく必要がある。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

- 拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
 改善改革しながら継続
 現状のまま継続（改善・改革なし）
 統合・新規事業への展開
 縮小
 休止
 廃止・終了
 予定どおりの要求
 一部改善の上要求
 今回は見送り
 その他の処置

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

上記評価のとおり